

## サハリン・ニヴフの昔話 (1)

丹菊 逸治 編

Ю. И. Миглут 口述

### 1. 採録の経過

2003年11月20日～2004年1月19日の1か月間、編者はロシア連邦サハリン州(サハリン島)に滞在しニヴフ民族の言語・文化調査を行った<sup>1</sup>。2003年11月29日～12月25日までは同島中部のポロナISK市に滞在し同地域の方言調査を行った。当時、チルウンヴド在住のЮлия Иванова Миглут氏がたまたま同地に滞在しており、12月1日にポロナISK市歴史博物館館長の Светлана Санги氏より紹介を受けた。Ю. И. Миглут氏はお孫さんの世話などでお忙しいところではあったが、こちらがニヴフ語・ニヴフ文化に関して勉強中だと伝えると、協力を快諾してくださった。実は氏には1999年に千葉大学の撮影グループがチルウンヴドを訪れた際、調査に同席していただいている。しかしそのときは慌しくて話を交わす間もなく、名前すら確認出来ずじまいだった。その後チルウンヴドを何度か訪れたが、氏とは会う機会がなかった。したがって今回が初めての共同作業である。

### 2. 口述者プロフィール

Юлия Иванова Миглут氏は1951年ポトヴォ(チルウンヴド近郊)生まれの女性。父は Тыңвиң 氏(シヤニヴォヌグン集団出身)、母は Миглут 氏(コイヴォヌグン集団出身)である。親戚筋からは有名な文化伝承者を輩出している。父の影響か若干北部の方言語形が混じる。「母にまるでウイльта人のような話し方をする子だといわれた」と笑っていた。現在はチルウンヴドに住んでいる。鉄分不足による貧血に悩まされているが、それ以外はいたって健康である。

### 3. テキスト作成の手順

現在では家庭内においてもニヴフ語が使用される機会は少ない。Ю. И. Миглут氏も長いことニヴフ語を使用していなかったという。実際、編者の観察でも、ロシア語での会話中にしばしば単語・短文レベルで用いられるだけでニヴフ語のみでの会話は非常にまれである。氏との作業当初もニヴフ語がなかなか出てこなかった。しかし一週間ほどして12月6日に編者が持参した昔話の録音を聞いた頃には大分慣れたようである。同日、本編の第1話(火の化け物に関する昔話)と第2話(小鳥に関する昔話)の二つをニヴフ語で語っていただいた。12月9日にはさらに、その聞き起こし原稿の校正をしていただき、さらにいくつかの昔話をロシア語で語っていただいた。翌日12月10日にそれらの昔話を今度はニヴフ語で語り、それを編者が直接ノートパソコンに打ち込む、という方法でテキス

<sup>1</sup> 2003年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究課題名「アイヌを中心とする日本北方諸民族の民具類を通じた言語接触の研究」研究代表者 中川裕 による。

ト化した。その際、氏には出来るだけ同時にモニター上で表記をチェックしていただいた。とはいえタイプしたのは編者であり、タイプミスや聞き誤りなどがあれば編者の責任である。12月16日に最後の昔話第7話（山中で拾った子供の昔話）をテキスト化して作業を終えた。

本テキストはこのようにして出来上がった。つまり昔話の語りを文字化したものではない。氏が目前で文字化される様子を見ながら、さらには少しずつ修正しながら作り上げられたものである。昔話の文体が用いられてはいるが、構成は書き言葉に準ずるものと考えられるべきかもしれない。

#### 4. 本テキストのジャンル

本テキストは **т'ыгур**（トゥルグシュ）と呼ばれるジャンルで、おおむね日本の「昔話」に相当する。このほかに、サハリン方言地域では節つきで歌われる叙事詩 **настур**（ンガストシュ）がある。また個人の体験談や伝説などは単に **кер**「話」とよばれる。本テキスト作成時にはすべて **Ю. И. Миглут** 氏本人が **т'ыгур** と呼んでいたが、第4話、第5話はどちらかという **кер** に近い内容である。第4話は海での作業時の護符に関する話で **т'ыгур** としては内容が物語的でなさすぎる。第5話に具体的な地名（ノグリキ）が出てくることなども通例の **т'ыгур** らしくない。しかし **Ю. И. Миглут** 氏本人はトゥミ川中流の住人であり、海での具体的な習俗や、海辺の町ノグリキの山については知らない。いずれの話も伝聞であることが、**т'ыгур** とみなされることと関係があるのかもしれない。

#### 5. ニヴフ語表記凡例

テキスト本文の表記はキリル文字表記、IPA 準拠の表記を併記した。前者は **Ю. И. Миглут** 氏の目前で文字化したのち修正を加えてある。表記法は原則として1991年版のニヴフ語教科書 **урпа к'эң**「美しい太陽」と同じである。ただし、**ни[ni]**と**њи[ni]**を書き分けず共に **ни** で表記してあるなど多少の異同がある。現在までおそらく教科書のものが最も権威ある表記法と見なされている。しかし複数の教科書がそれぞれ異なる表記法を採用し混乱が生じている。結果ニヴフ人の多くは各人ばらばらに折衷的な表記法を用いている（厳密に統一されてはいない）。基本的には1991年版教科書と同じだが **ɸ[y]**と**ɸ[ɤ]**、**ни[ni]**と**њи[ni]**、の書き分けはあまりなされない。また **ɸ** はあまり用いられていない。**ɸ[y]**と**ɸ[ɤ]**には音韻的な対立があるが、両方とも「符号付の **ɸ**」と呼ばれ表記に混同が起きているようである。結果、複雑な形をした文字 **ɸ** があまり用いられなくなっている。なお **i** の後では **[n]**、**[ɲ]** に対立はなくなりともに **[ɲ]** と発音されるので **ни[ni]**と**њи[ni]**を書き分ける必要はない。逆に **ш[s]**と**ɸ[rʰ]**に音韻的な対立はないと考えられるが、書き分けようとする人もいる。本テキストのキリル文字表記では現地の表記に出来るだけ沿ったが、**ɸ**と**ɸ**は表記し分けた。**ш**は用いていない。IPA 準拠表記では **h**と**ɸ**はともに **ɲ** で表記した。なお IPA 準拠表記と日本語訳は分かち書きおよび形態素の区切り（[-]あるいは[・]で区切った）が対応している。形態素の順序が異なるなど日本語訳がつけにくい場合、マーカーや挿入母音の位置を[ ]内で示した。（ ）は直前の形態素の機能を説明したものである。

Т'ЫЛГУР 1.

t<sup>h</sup>əlgur<sup>h</sup> 1.

昔話 1.

- 
- 1 **ВО НЯҚР РУХ НИВҢ ТЯҚР ЖУНВДҒУН.**  
vo naqr<sup>h</sup> ruχ nivŋ saqr<sup>h</sup> hunv-d-yun.  
村 ひとつ に 人 3つ 住んでいた・[複数].
- 
- 2 **ЫТК ХАРА ЫМК ХАРА,**  
ət<sup>h</sup>k hara əmk hara,  
父 と 母 と、
- 
- 3 **ИН МЫТЬКЫЛК ҖАҒ ЭҖЛҢ ХАРА.**  
in məskəlk r<sup>h</sup>ag əv<sup>h</sup>lŋ hara.  
彼らの 小さな 女の 子供 と。
- 
- 4 **ИН ЭҖЛҢ ТАФ КОМИ ФИР ЛЕРД.**  
in əv<sup>h</sup>lŋ taf komi fi-r<sup>h</sup> ler-d.  
彼らの 子供は 家 のそば にいて 遊ん・だ。
- 
- 5 **К'ЫРҢЫ П'РАФ ТОХ ЮҖР, ЙЫМК МА ЯҚРЫМД.**  
k<sup>h</sup>ər-ŋə p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af toχ juv-r, j-əmk ma jaq-rəm-d.  
お腹が空・いたので 自分の・家 に 入る・と、彼女の・母は 干し魚 を切っ・て・いた。
- 
- 6 **ЕҖЛҢ МА ЭҚР КЫМА ЖАҖ МА ҖЕИНЫҖ,**  
j-əv<sup>h</sup>lŋ ma ək-r<sup>h</sup> kəmaħa-r<sup>h</sup> ma v̄e-inə-r<sup>h</sup>  
彼女の・子供は 干し魚 を欲しがっ・て 伸ばし・て 干し魚 を取・ろうとして
- 
- 7 **ЙЫМК ЕРХ ИТҖ,**  
j-əmk j-erχ it-r<sup>h</sup>,  
彼女の・母親は 彼女・に 言っ・て、
- 
- 8 **«ТУКО! НИ НАПЫ МА ЯҚДРА.»**  
"tuko! ni nappə ma jaq-d-ra."  
「静にしないで。私は まだ 干し魚 を切っ・てる・のだよ。」
- 
- 9 **ЕҖЛҢ КЫМАХАҖ ТЯИ, МА ҖЕИНЫҖ,**  
j-əv<sup>h</sup>lŋ kəmaħa-r<sup>h</sup>, sai ma v̄e-inə-r<sup>h</sup>,  
その・子供は (手を)伸ばし・て、干し魚 を取・ろうとして
- 
- 10 **П'РАМК ЯҚР, ЧОХ ПА ТУЛЕ.**  
p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>amk jaq-r<sup>h</sup>, c<sup>h</sup>oχ pa tul̄e.  
自分の・手 を切っ・て、血がピュッと吹きだした。
-

- 11 **ин р̣аг э̣ғл̣ң қағуи̣р̣ икус тох̣ кузрымд.**  
 in r<sup>h</sup>ag ēv̄l̄ŋ qāɣui-r<sup>h</sup> ikus toχ kuz-r̄əm-d.  
 彼らの 女の 子供は 泣い・て どこか へ 出・て行ってしまい・つ・つあ・る。
- 
- 12 **й̣ғтк̣ ит̣р̣, «на̣р̣қаи̣ра, таф̣ тох̣ р̣ор̣пу̣я.»**  
 j-ət̄k it-r<sup>h</sup>, "na<sup>h</sup>r̄qāira, taf toχ r<sup>h</sup>or̄pu-ja."  
 その・父が 言っ・て、「かわい・そうに、家 に 連れて来い・よ」
- 
- 13 **й̣ымк̣ куз̣р̣, п'э̣ғл̣ң олағ̣р̣,**  
 j-əm̄k kuz-r<sup>h</sup>, p<sup>h</sup>-ēv̄l̄ŋ olay-r<sup>h</sup>,  
 彼女の・母は 外へ出・て、自分の・子供 を呼ん・で、
- 
- 14 **«олаа, п'ра̣ф̣ тох̣ пр̣ы̣я.»**  
 "olaa, p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af toχ pr<sup>h</sup>ə-ja.  
 「おおい、自分の・家 へ 来・なさい。
- 
- 15 **е̣ғл̣ң э̣хс тох̣ ви̣р̣ кағор̣,**  
 j-ēv̄l̄ŋ exs toχ vi-r<sup>h</sup> kaγo-r<sup>h</sup>,  
 その・子供は よその場所 へ 行っ・て 泣い・て、
- 
- 16 **й̣ымк̣ т̣яи̣ ёла̣х̣р̣,**  
 j-əm̄k cai jolay-r<sup>h</sup>,  
 その・母は 再び 呼びかけ・て、
- 
- 17 **«олаа, пры̣р̣, ымк̣ мы̣ньк̣ мому̣я.»**  
 "olaa, pr<sup>h</sup>ə-r<sup>h</sup>, əmk̄ m̄əŋk̄ momu-ja."  
 「さあ、来・て、 母の おっぱい を吸い・なさい。」
- 
- 18 **е̣ғл̣ң кми̣р̣ң ңакс̣ ми̣ рох̣ юғ̣р̣ қағуид.**  
 j-ēv̄l̄ŋ km̄ir̄ŋ ŋaks̄ mi roχ juγ-r<sup>h</sup> qāɣui-d.  
 その・子供は ハマナスの 枝(やぶ) の中 へ 入っ・て 泣いて・い・た。
- 
- 19 **қағуи̣р̣, п'ымк̣ рох̣ ит̣д.**  
 qāɣui-r<sup>h</sup>, p<sup>h</sup>-əm̄k roχ it-d  
 泣いて・い・て、 自分の・母 に 言っ・た。
- 
- 20 **«ни ымк̣ рох̣ оск̣адра,**  
 "ni əmk̄ roχ oska-d-ra,  
 「私は 母 に 怒って・る・のだよ、
- 
- 21 **ни ымк̣ рох̣ оск̣адра.»**  
 ni əmk̄ roχ oska-d-ra."  
 私は 母 に 怒っている・のだよ。」
-

- 22 **авьял зил зил**  
avjal zil zil  
アヴヤル ズイル ズイル
- 
- 23 **авьял зил зил**  
avjal zil zil  
アヴヤル ズイル ズイル
- 
- 24 **ни ымк мыньк роҳ осқосқод**  
ni əmk məŋk rox osqosqo-d  
私は 母の おっばい に 戻ってき(?)・た
- 
- 25 **ни ымк мыньк роҳ осқосқод**  
ni əmk məŋk rox osqosqo-d  
私は 母の おっばい に 戻ってき(?)・た
- 
- 26 **авьял зил зил**  
avjal zil zil  
アヴヤル ズイル ズイル
- 
- 27 **авьял зил зил**  
avjal zil zil  
アヴヤル ズイル ズイル
- 
- 28 **мытъкулк тевр̣к мур̣ пуир̣ вид.**  
məckək tev<sup>h</sup>k mu-r<sup>h</sup> pui-r<sup>h</sup> vi-d.  
小さな 小鳥 になっ・て 飛ん・で 行っ・た。
- 
- 29 **нивгун сик мыдгунак,**  
niv-γun sik mə-d-γun-ak,  
人・々は みな 聞い・た・[複数]・[強調]
- 
- 30 **ху тевр̣к толвайңы,**  
hu tev<sup>h</sup>k tolv-ai-ŋə,  
この 小鳥は 夏・になる・と、
- 
- 31 **кмирң һакс ми фир̣ терымд.**  
kmiŋŋ ɥaks mi fi-r<sup>h</sup> se-rəm-d.  
ハマナス の(茂った)枝 の中 にい・て さえずって・い・た。
- 
- 32 **авьял зил зил**  
avjal zil zil  
アヴヤル ズイル ズイル
-

33 фюуть фють ють  
fuc fuc fuc  
フュチ フュチ フュチ

---

34 фюуть футю ють  
fuc fuc fuc  
フュチ フュチ フュチ

---

35 СИК.  
sik.  
終わり。

---

2003. 12. 09

---

т'ыгуӓ 2.

t<sup>h</sup>əlgur<sup>h</sup> 2.

昔話 2.

---

1 азмтӓ тяқӓ, тяқӓ җа җанҗт виҗы,  
azmc saqr<sup>h</sup>, saqr<sup>h</sup> җа җану-t vi-җə  
男が 3人、3人で 動物 を獲り・に 行っ・て

---

2 ин, нивӗ нен, ин аки, жуӗ таф п'иӓ жунвра,  
in, nivӗ nen, in aki, huӗ taf p<sup>h</sup>i-r<sup>h</sup> hunv-ra,  
彼らの、ひと 一人、彼らの 兄が、この 家 にとどまっ・て いて、

---

3 асқ менӗ җа җанҗт вита,  
asq menӗ җа җану-t vi-ta,  
弟 二人が 動物を 獲り・に 行っ・て、

---

4 ин аки, туғӓ итиӓ жунвд.  
in aki, tuғ<sup>h</sup> iti-r<sup>h</sup> hunvd.  
彼らの 兄は、火を 見・て いた。

---

5 ин җа җанҗтот палух, парваиҗа пӓрӓдҗун.  
in җа җану-tot pal ux, parv-ai-җə p<sup>h</sup>ə-d-җun.  
彼らは 動物 を獲っ・てから 山 で、夕方・になっ・たので 来・た・[複数]。

---

- 6 **п'раф тох прыңы,**  
p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af tox pr<sup>h</sup>ə-ŋə,  
自分の・家 に 来・て、
- 
- 7 **ңа ңанғ таф тох прығы,**  
ña ñany taf tox pr<sup>h</sup>ə-ŋə,  
動物 を獲る 小屋 に 来・て、
- 
- 8 **ин аки напы, таи рук ғахағ туғр ми рьд.**  
in aki nappə, tai rukyaħa-r<sup>h</sup>, tuyr mi r<sup>h</sup>ə-d.  
彼らの 兄は まだ、キセル をくわえ・て、火 の中 を見てい・た。
- 
- 9 **туғр пағлы, пағлы, напы уд.**  
tuyr paŋlə, paŋlə, nappə u-d.  
火は 赤く、赤く、まだ 燃えてい・た。
- 
- 10 **ин чай ратот позңы,**  
in c<sup>h</sup>aj ra-tot poz-ŋə,  
彼らは お茶 を飲ん・でから 寝た・が、
- 
- 11 **ин аки нен напы жұпр таи рукр жунвд.**  
in aki nen nappə ħup-r<sup>h</sup> tai ruk-r<sup>h</sup> ħunv-d.  
彼らの 兄 ひとり まで 座つ・て キセル をくわえ・て いた。
- 
- 12 **т'атң хаңы, ин ңа ңанғт витот,**  
t<sup>h</sup>atŋ ħa-ŋə, in ña ñany-t vi-tot,  
朝 になつ・て、彼らは 動物 を狩り・に 行く・と、
- 
- 13 **ин ңафқ, напы жымтир жунвд.**  
in ñafq, nappə ħəmti-r<sup>h</sup> ħunv-d.  
彼らの 友は まで そうし・て いた。
- 
- 14 **напы қ'одикавр, туғр ми рьд.**  
nappə q<sup>h</sup>odi-kav-r<sup>h</sup>, tuyr<sup>h</sup> mi r<sup>h</sup>ə-d.  
まだ 寝ることも・なく・て、火 の中 を見てい・た。
- 
- 15 **қ'одикавр жымтир туғр рьңы,**  
q<sup>h</sup>odi-kav-r<sup>h</sup> ħəmti-r<sup>h</sup> tuyr r<sup>h</sup>ə-ŋə,  
寝る・ことも・なく・て そうし・て 火 を見ていた・が、
- 
- 16 **ин ихлуд, яғур, яғур п'раф тох видғун.**  
in ixlu-d, jaġu-r<sup>h</sup>, jaġu-r<sup>h</sup> p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af tox vi-d-yun.  
彼らは 怖かっ・た、すぐに、すぐに 自分の・家 に 行っ・た・[複数]。

- 17 **п'раф тох мағтот, нивгун к'ердгун.**  
 p<sup>h</sup>-raf tox mak-tot, niv-yun k<sup>h</sup>er-d-yun.  
 自分の・家 に 近づい・ていくと、人・々 に話し・た・[複数]。
- 
- 18 **пал дох виңы,**  
 pal dox vi-ŋə,  
 山 へ 行った・のだが、
- 
- 19 **нивгун вопувопут пал дох мардгун.**  
 niv-yun voru-voru-t pal dox mar-d-yun.  
 人・々は 集まり・集まりし・て 山 へ 行っ・た・[複数](のだ)。
- 
- 20 **ин џафқ напы жымтир туғр рыр жунвд.**  
 in ɟafq nappə həmti-r<sup>h</sup> tuɟr<sup>h</sup> r<sup>h</sup>ə-r<sup>h</sup> hunv-d.  
 彼らの 友は まだ そうし・て 火 を見・て いた。
- 
- 21 **(осина так оставили)**  
 そしてアシーナ(白楊)という木を(地面に)差し込んで
- 
- 22 **туғр милк сик ин џафқ џаврми иньхард.**  
 tuɟr milk sik in ɟafq ɟavrmɪ iŋɟar-d.  
 火の 化け物の 体中を 彼らの 友が 背中に 突き刺し(?)・た。
- 
- 23 **ин п'во рох ягут клоит видгун.**  
 in p<sup>h</sup>-vo rox jaɟu-t kloɪ-t vi-d-yun.  
 彼らは 自分の・村 に 急い・で 走っ・て 行っ・た・[複数]。
- 
- 24 **хаим нивгун итдгун, к'ераидгун.**  
 haim niv-yun it-d-yun, k<sup>h</sup>erai-d-yun.  
 年とつた 人・々は 言っ・た・[複数]、話し・た・[複数]
- 
- 25 **«туғр милк ин џафқ иньхард»**  
 tuɟr milk in ɟafq iŋɟar-d  
 火の 化け物を 彼らの 友が 突き刺し(?)・た
- 
- 26 **СИК.**  
 sik.  
 終わり。
- 

2003. 12. 09



---

Т'ЫЛГУР 3. «КЛУЛҢИ»

tʰəlɡurʰ 3. "klulŋi"

昔話 3. 「クモ」

---

1 ТЫ ҢЫНК ҖАҖ НЕНҢ ЫЧХ АВҖ ХУНВД.

tə ɲənk rʰas ɲeŋ əsʰx av-rʰ hunv-d.

その昔女性が一人夫と結婚して暮らしていた。

---

2 ЭНАК НИВҢ АВИНЫҖ К'ЫМЛЫД.

ena-k ɲivŋ av-inə-rʰ kʰəml-ə-d.

他の者である人と結婚しようと考え[挿入母音]た。

---

3 КЫМЫЛҖКЕ, ТАМТИҢ П'ЫЧХ ВЫКЗИНЫД.

kʰəm-ə-l-fke, "tamci-ŋ pʰ-əsʰx vəkz-i-nə-d...."

考えた[挿入母音]が、「どうやって自分の夫を無く・なる・ようにするのだ」

---

4 КЛУЛҢИ ОПОҖ, АЛС МИ СИҖ, ЧО ҒИН ВЫЛКҖ,

klulŋi opo-rʰ, als mi si-rʰ, cʰo ɲin vək-rʰ,

クモを採取して、草の実の中にいれて、魚と混ぜて、

---

5 П'ЫЧХ АҖТ, ЙЫЧХ ХУ ЛАЗҢ АЛС НИҖ МУД.

pʰ-əsʰx arʰ-d, j-əsʰx hu lazŋ als ɲi-rʰ mu-d.

自分の夫に食べさせた、彼女の夫はこのまぜた草の実を食べ・て死んだ。

---

6 ЯҢ МУҢЫ, КЛУЛҢИ ҒИН ЙЫГҢХ УХ АМАМДҖУН.

jaŋ mu-ŋə, klulŋi ɲin j-əsʰx ux amam-d-ɲun.

彼が死ぬと、クモも彼女の夫から歩いてきた[複数]。

---

7 ХАЙМ НИВҖУН ИТДҖУН,

haim ɲiv-ɲun it-d-ɲun,

年寄りの人々は言った[複数]。

---

8 ЯҢ МАМҖАН, П'ЫЧХ КУД, КЛУЛҢИҒИН ЯРҖ.

jaŋ mam-ɲan, pʰ-əsʰx ku-d, klulŋi ɲin jar-rʰ.

彼の妻だ・ということだ、自分の夫を殺した、クモも食べさせ・て。

---

9 СИК

sik

終わり。

---

т'ылуғ 4. «чхаруғ»

t<sup>h</sup>əlɣur<sup>h</sup> 4. "c<sup>h</sup>χarur<sup>h</sup>"

昔話 4. 「チハルシュ」

---

1 НИВГУН ИТДГУН.

niv-γun it-d-γun.

人・々は 言っ・ていた・[複数]。

---

2 КЕРҚ ТОХ ВИТ, ҲАҶАНҒТ ВИҶЫ,

ker<sup>h</sup>q toχ vi-t, Һa Һaγu-t vi-Һә,

海 へ 行っ・て、動物 を捕り・に 行く・と、

---

3 ОСҚ ҲАТЬХ ПРӢР ӢРИДГУН.

osq Һacχ pr<sup>h</sup>o-r<sup>h</sup> r<sup>h</sup>ori-d-γun.

ウサギの 足 を持っ・て(?) 持っ・て行く・[複数]。

---

4 ЧХАРУҢКУН ОСҚ ХЛУДГУН.

c<sup>h</sup>χarur<sup>h</sup>-kun osq hlud-γun.

チハルシュ・[複数]は ウサギ を怖がる・[複数]。

---

5 ОСҚ ҲАМАДЪ ҒАВРҒАИ,

osq Һamadз γavr-γai

ウサギの 皮が 無い・ときには

---

6 ЧХАРОҢКУН НИВГУН ТОЛ МИ РОХ ҒЕДГУН.

c<sup>h</sup>χaror<sup>h</sup>-kun niv-γun tol mi roχ Һe-d-γun.

チハロシュ・たち[複数]は 人・々を 海 の中 へ 取っ・て行く・のだ・[複数]。

---

т'ыгурь 5.

t<sup>h</sup>əlgur<sup>h</sup> 5.

昔話 5.

1 НИВГУН КЕРПУРДГУН.

liv-γun ker<sup>h</sup>pur-d-γun.

人・々は 話し・た・[複数]

2 ЧАМН НЕНН, ВАРОР П'ФО РОХ ВИЙВУНЫ,

č<sup>h</sup>amŋ nenŋ va-ror<sup>h</sup> p<sup>h</sup>-fo roχ vi-ivun-ŋə,

чамнが 一人 戦い・に 自分の・村 へ 行った・とき、

3 И ТУЛКУРЬ, П'ХАС ГУТЮД, ПАЛ РОХ.

i tulku-r<sup>h</sup>, p<sup>h</sup>-χas γut<sup>l</sup>-u-d, pal roχ.

川 を渡って行く・とき、 自分の・太鼓を 落ち・させ・た、山 に。

4 ХУ ХАС НАПЫ НАПЫ НИВГУН ИДЫТГУН.

hu χas naprə naprə liv-γun idət-γun

その 太鼓は 今でも 今でも 人・々 が見・る(ことができる)・[複数]

5 ХУ ПАЛ ХАС ПАЛ ЖАУДГУН.

hu pal "χas pal" hau-d-γun.

その 山を「太鼓 山」と呼ん・でいる・[複数]。

6 СИК.

sik.

終わり。

2003. 12. 09.

т'ыгурь 6.

t<sup>h</sup>əlgur<sup>h</sup> 6.

昔話 6.

1 ТЫ НАНК НИВГУН Т'ЫЛУДГУН.

tə ɲənk, liv-γun t<sup>h</sup>əlgu-d-γun.

その 昔、 人・々は 昔話をし・た・[複数]。

- 2    **ṙaḡ nenṅ ычх авинṙ,**  
       r<sup>h</sup>ag nenṅ əc<sup>h</sup>x avinə-r<sup>h</sup>,  
       女性が ひとり 夫 と結婚し・て、
- 
- 3    **п'э́лṅ мы́тъкы́лк п'хи ро́х ṙoṙюṙ вы́кзд.**  
       p<sup>h</sup>-əvlṅ məckək p<sup>h</sup>xi roḡ r<sup>h</sup>oṙ<sup>h</sup>ju-r<sup>h</sup> vəkz-d.  
       自分の・子供 のまだ小さいのを 林 に 背負っ・ていっ・て なくした。
- 
- 4    **яṅ алзṅaṙ п'э́лṅ тоṙ вид.**  
       jaṅ alzṅa-r<sup>h</sup> p<sup>h</sup>-əvlṅ to-r<sup>h</sup> vi-d.  
       彼女は 草の実をとり・に 自分の・子供 を背負っ・て 行っ・た。
- 
- 5    **алс п'э́ны, кымлыṙ,**  
       als p<sup>h</sup>e-ṅə, kəmlə-r<sup>h</sup>  
       草の実 を採っ・て 考え・て
- 
- 6    **тас тоḡ п'э́лṅ си́ид ни.**  
       tas toḡ p<sup>h</sup>-əvlṅ si-i-d, ni.  
       ここ に 自分の・子供 を置いて・おこう(未来)・か(終止形)、私は。
- 
- 7    **лаḡ кикруḡ идыṙ, лаḡ ваи ро́х п'э́лṅ сиṙ,**  
       laḡ kigr uḡ idə-r<sup>h</sup>, laḡ vai roḡ p<sup>h</sup>-əvlṅ si-r<sup>h</sup>,  
       雲を 上 に 見・て、雲 の下 に 自分の・子供 を置い・て、
- 
- 8    **виṙ алс п'ед.**  
       vi-r<sup>h</sup> als p<sup>h</sup>e-d.  
       行っ・て 草の実 を採っ・た。
- 
- 9    **алс п'э́роṙ, лаḡ ṙыңы, я лаḡ уиḡе,**  
       als p<sup>h</sup>e-roṙ<sup>h</sup>, laḡ r<sup>h</sup>ə-ṅə, ja laḡ uiḡ-e.  
       草の実 を摘んで・から、雲 を 見・ると、その・雲は 無かつ・たのだ。
- 
- 10    **ню́ньк п'э́лṅ ṅaṅroṙ, п'ṙaḡ тоḡ вид.**  
       nɯṅk p<sup>h</sup>-əvlṅ ṅaṅ-roṙ<sup>h</sup>, p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af toḡ vi-d.  
       少し 自分の・子供 を探し・てから、自分の・家 に 行っ・た。
- 
- 11    **п'ṙавуḡ п'ы́чх к'ерṙ,**  
       p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>av uḡ p<sup>h</sup>-əc<sup>h</sup>x k<sup>h</sup>er-r<sup>h</sup>,  
       自分の・家 で 自分の・夫 に話し・て、
- 
- 12    **п'э́ғаṅ п'э́лṅ вы́кзд фуру.**  
       p<sup>h</sup>-əvaṅ p<sup>h</sup>-əvlṅ vəkz-d furu.  
       遠くで(?) 自分の・子供 をなくし・て という話をした。

13 ЙЫЧХ П'МАМ ҢАХӢ ҒУСУД, ТАВУХ.  
j-əc<sup>h</sup>x p<sup>h</sup>-mam ɳax-r<sup>h</sup> ɣusu-d, tav ux  
彼女の・夫は 自分の・妻を 罰し・て 追い出し・た、家 から。

---

14 НИВҒУН ИТДҒУН, ТЯИ ЯҢ ЫЧХ ИВДЛО.  
niv-ɣun it-d-ɣun, cai jaŋ əc<sup>h</sup>x iv-d-lo.  
人・々は 言っ・た・[複数]、再び 彼女に 夫は ある・の・か(いや、ないだろう)。

---

15 СИК.  
sik.  
終わり。

---

2003. 12. 09.

---

Т'ЫЛГУӢ 7. «МИЛК ЭҒЛӢ»

t<sup>h</sup>əlɣur<sup>h</sup> 7. "milk ɛɳɳ"

昔話 7. 「化け物の 子供」

---

1 НИВӢ Т'ЫЛГУӢ  
nivŋ t<sup>h</sup>əlɣu-r<sup>h</sup>.  
ひとは 昔話をし・た。

---

2 И ХОМИ ӢАҒ МЕНӢ ХУНВДҒУН.  
i xomi r<sup>h</sup>ag menŋ hunv-d-ɣun.  
川 のそばに 女性 3人が 住んでい・た・[複数]。

---

3 НАНХ ХАРА ЯСҚ ХАРА АЛС ФЕТ ИНЬТА,  
nanx hara j-asq hara als fe-t iŋ-ta,  
姉 と その・妹 と 草の実 を摘ん・で 食べ・て、

---

4 ЧО ҢАНҒТ ИНЬТА, ХЫМТИТ ХУНВТА.  
c<sup>h</sup>o ɳaŋ-t iŋ-ta, hɛmci-t hunv-ta.  
魚 を獲っ・て 食べ・て、そうし・て 暮らしてい・た。

---

5 АЛЗ ҢАТ ИН ВИҢЫ, АСЗ ҢАТОТ,  
alz ɳa-t in vi-ŋə, alz ɳa-tot,  
草の実 を摘み・に 彼らは 行・き、草の実 を摘ん・でから、

---

- 6 **п'рафтох п'рыивуңы**  
 p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af tox p<sup>h</sup>r<sup>h</sup>ə-ivu-ŋə,  
 自分の・家 に 帰・ろうとする・と、
- 
- 7 **эҗлң қағоит ин мыдғун.**  
 ɛʒlŋ qaɣoi-t in mə-d-yun.  
 子供が 泣い・て 彼らは 聞い・た・[複数]。
- 
- 8 **п'хи ух нуд эҗлң қағуирымд...**  
 p<sup>h</sup>xi ux nud ɛʒlŋ qaɣoi-rəm-d...  
 森 で 何の 子供が 泣い・てい・る(のか)
- 
- 9 **ин идыңы мытъкылк эҗлң ненң,**  
 in idə-ŋə məskəlk ɛʒlŋ nɛnŋ,  
 彼女らが 見る・と 小さな 子供が 一人、
- 
- 10 **тяқ ми фир қағоирымд.**  
 saɣ mi fi-r<sup>h</sup> qaɣoi-rəm-d.  
 ゆりかご の中 にい・て 泣い・てい・た。
- 
- 11 **ху эҗлң оңарт ин тафтох ғедғун.**  
 hu ɛʒlŋ oŋar-t in taftox ɣe-d-yun.  
 その 子供 を可哀相に思っ・て 彼らの 家 に 持ち帰っ・た・[複数]。
- 
- 12 **п'рафтох җорит ярт яң ах қ'окта,**  
 p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af tox ɟ<sup>h</sup>ori-t, jaɾ<sup>h</sup>-t jaŋ q<sup>h</sup>ok-ta,  
 自分の・家 に 連れ帰っ・て 食べさせ・て 眠ら・せ・て、
- 
- 13 **пат жайны яң нанх алз җаҗ вира,**  
 pat hai-ŋə nanx alz ɟa-r<sup>h</sup> vi-ra,  
 翌日 になっ・て 姉が 草の実 を摘み・に 行く・と
- 
- 14 **ясқ п'раф п'ир п'ифрыра,**  
 j-asq p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af pi-r<sup>h</sup> p<sup>h</sup>ifrə-ra,  
 彼女の・妹は 自分の・家 にい・て 留守番をしてい・て
- 
- 15 **иньк ера, п'эҗлң аҗра, жароҗ чах җаҗ вид.**  
 iŋk je-ra, p<sup>h</sup>-ɛʒlŋ aɟ<sup>h</sup>-ra, ha-roɟ<sup>h</sup> ʃ<sup>h</sup>aɟ ɟa-r<sup>h</sup> vi-d.  
 食べ物 を煮・て、 自分の・子供 に食べさせ・て、 そうし・てから 水 を汲み・に 行っ・た。
- 
- 16 **чах п'ероҗ, п'раф тох п'рыивуҗ, мыд.**  
 tʃaɟ p<sup>h</sup>e-roɟ<sup>h</sup>, p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af tox p<sup>h</sup>ri-ivu-r<sup>h</sup>, mə-d.  
 水を 汲ん・でから、 自分の・家 に 帰・ろうとし・て、 聞い・た。
-

- 17 таф ми ух тауд вырк ло... қожурымд.  
 taf mi ux taud vər<sup>h</sup>k lo, qoju-rəmd.  
 家の中で誰だろうか、騒いでいた。
- 
- 18 ку хуты рьлхр, т'ырңы, идыр,  
 ku hutə r<sup>h</sup>əlx-r<sup>h</sup>, t<sup>h</sup>ər-ŋə, idə-r<sup>h</sup>,  
 矢の(?) 穴をあけ(?)て、見る・と、見・て、
- 
- 19 ин эҗлң, п'тяқ хизғарр,  
 in eʒlŋ, p<sup>h</sup>-saq hiz-γar-r<sup>h</sup>,  
 彼女らの子供は、自分の・ゆりかごを身につけ・終わっ・て(外してしまっ・て?)、
- 
- 20 қлоинғир полоғр, тяқо ғир кезюр,  
 qoin ɣir<sup>h</sup> poloɣ-r<sup>h</sup>, saqo ɣir<sup>h</sup> kezju-r<sup>h</sup>  
 走り で わめい・て ナイフ・を 研い(?)・で
- 
- 21 яң прыҗаи, ни иньғаридра,  
 jaŋ pr<sup>h</sup>ə-ʒai, ni iŋ-γari-d-ra.  
 彼女が 帰った・なら、私は 食べ・てしまうの・だ・ぞ。
- 
- 22 ху рағ кымлыр, мытъкылк эҗлң хымтидла...  
 hu r<sup>h</sup>aɣ kəml-ə-r<sup>h</sup>, məskəlk eʒlŋ həmti-d-la...  
 その 女性は 考え・[挿入母音]・て、小さな 子供が こんな風・である・か。
- 
- 23 ры рьлғңы, индыңы,  
 r<sup>h</sup>ə r<sup>h</sup>əly-ŋə, idə-ŋə,  
 戸 を開け・て、見る・と、
- 
- 24 еҗлң, п'сяқ ми фир, п'выпыр қ'орымд.  
 j-eʒlŋ p<sup>h</sup>-saq mi fi-r<sup>h</sup> p<sup>h</sup>-vəpə-r<sup>h</sup> q<sup>h</sup>o-rətm-d.  
 彼女の・子供は 自分の・ゆりかご の中 にい・て 揺れ(?)・て 眠っ・ていた。
- 
- 25 янанх прыңы, алзңар, ясқ п'нанх жерд.  
 ja-nanx pr<sup>h</sup>ə-ŋə, alz ŋa-r<sup>h</sup>, j-asq p<sup>h</sup>-nanx her<sup>h</sup>-d.  
 彼の・姉が 来・て、草の実 を摘ん・で、彼の・妹は 自分の・姉 に語っ・た。
- 
- 26 хымти хымти фуритр,  
 həmti həmti fur it-r<sup>h</sup>,  
 こんなふう、こんなふう と語っ・て、
- 
- 27 хуң эҗлң ган, тьи муғвң жаңы,  
 huŋ eʒlŋ gan, ɬai muɣvŋ ɬaŋy,  
 その 子供 が [強調]、また 昼 になっ・て、

- 28 **ясқ пхи роҳ алс п'еъ вид.**  
 j-asq pxi rox alz pe-r<sup>h</sup> vi-d.  
 彼女の・妹が 平原 へ 草の実 を採り・に 行っ・た。
- 
- 29 **янанх п'ифрыра, иньк ера, мытъкылк аъра,**  
 ja-nanx p<sup>h</sup>ifra-ra, iŋk je-ra, mæskælk ar<sup>h</sup>-ra,  
 彼女の・姉は 留守番をし・て、 食事を 煮・て、 小さいの に食べさせ・て、
- 
- 30 **хароъ, пхи роҳ чхаръ њар вид.**  
 ha-gor<sup>h</sup> pxi rox c<sup>h</sup>ar<sup>h</sup> њa-r<sup>h</sup> vi-d.  
 そうし・てから 平原 へ 薪木 を集め・に 行っ・た。
- 
- 31 **чхаръ вапъ п'раф тох пъывуңы,**  
 c<sup>h</sup>ar<sup>h</sup> var-r<sup>h</sup> p<sup>h</sup>-r<sup>h</sup>af tox pr<sup>h</sup>ə-ivu-ŋə,  
 木 を担い・で 自分の・家 に 帰・ろうとする・と、
- 
- 32 **нуд вырк ло, ин таф ми фиръ қоюрымд.**  
 nud vər<sup>h</sup>k lo, in taf mi fi-r<sup>h</sup> qoju-r<sup>h</sup>əm-d.  
 何 だろう か、 彼女らの 家 の中 にい・て 騒い・でいる。
- 
- 33 **ку хуты, алхъ идыңы,**  
 ku hutə, alx-r<sup>h</sup> idə-ŋə,  
 矢の(?) 穴を、開け・て 見る・と、
- 
- 34 **ин эфлң п'сяқ хизғаръ,**  
 in evlŋ p<sup>h</sup>-saq hiz-γar-r<sup>h</sup>,  
 彼女らの 子供が 自分の・ゆりかご を身につけ・終っ・て(外してしまっ・て?)
- 
- 35 **тяқо гин гиъ кзюъ қоюрымд.**  
 saqo gin gir<sup>h</sup> kzju-r<sup>h</sup> qoju-rəm-d.  
 ナイフ などを 研い(?)・で 騒い・でいた。
- 
- 36 **«жу рағгун пъығай ин ниғаридра.»**  
 "hu r<sup>h</sup>ag-γun pr<sup>h</sup>ə-kai in ni-γari-d-ra."  
 あの 女性・たちが 帰っ・たら 彼女ら を食べ・てしまうの・だ・ぞ。
- 
- 37 **яңнанах ика клоиғра, п'асқ оръ.**  
 jaŋ-nanax ika klo-i-γ-ra, p<sup>h</sup>-asq or-r<sup>h</sup>.  
 彼女の・姉は すぐに(?) 走ら・せ(?)・た、 自分の・妹 を起こし・て。
- 
- 38 **п'асқ орңы эрх итъ,**  
 p<sup>h</sup>-asq or-ŋə erx it-r<sup>h</sup>,  
 自分の・妹 を起こし・て 彼女に 言っ・て、



- 39 «КЛОИНАТЕ, КЛОИНАТЕ.  
kloi-n-ate, kloi-n-ate.  
走る・[未来]・しよう、走る・[未来]・しよう。
- 
- 40 МЕН ЭҒЛІҢ МИЛК ЭҒЛІҢ ДА.»  
men evlŋ milk evlŋ da.  
私たちの 子供は 化け物の 子供 だ。
- 
- 41 ИКА КЛОИДҒУН, КЛОИДҒУН.  
ika kloi-d-yun, kloi-d-yun.  
すぐに 走っ・た・[複数]、走っ・た・[複数]。
- 
- 42 МИЛК ЭҒЛІҢ ИН АРИ НАФ,  
milk evlŋ in ari naf,  
化け物の 子供は 彼女らの 後ろだった 今では、
- 
- 43 ЯНАНХ П'Е П'АЛҒРИФ ТОҒ ПАЗД.  
ja-nanx p<sup>h</sup>-e p<sup>h</sup>-alɣrif toɣ paz-d.  
彼女の・姉は 自分の・櫛を 自分の・うしろ に 投げ・た。
- 
- 44 ИН АЛҒАВУХ ПИЛКАР ЧХАРКУН ПАНДҒУН.  
in alɣav ux pil-kar<sup>h</sup> c<sup>h</sup>ar<sup>h</sup>-kun pan-d-yun.  
彼女らの かげ に 大き・な 木・々が 生え・た・[複数]。
- 
- 45 ХУ МИЛК ИКА ЧХАРКУН КАВРИЮР ИНЬҒРА.  
hu milk ika c<sup>h</sup>ar<sup>h</sup>-kun kavriju-r<sup>h</sup> iŋ-y-ra.  
その 化け物は すぐに 木・々を 無く・しようとし(?)・て 食べ・たの・だ。
- 
- 46 ХУ ЧХАРКУН НИҒАИРОҒ, ИН АРИҒ КЛОИД.  
hu c<sup>h</sup>ar<sup>h</sup>-kun ni-ɣai-ror<sup>h</sup>, in ari-r<sup>h</sup> kloi-d.  
その 木・々を 食べ・終っ・てから、彼女らの 後になっ・て 走っ・た。
- 
- 47 ҒАҒҒУН КЛОИҒРА, КЛОИҒРА,  
ɣaɣ-ɣun kloi-y-ra, kloi-y-ra.  
女性・たちは 走ら・せ・た、走ら・せ・た。
- 
- 48 ХУ МИЛК АХ ИН ВОИНЫҒ,  
hu milk ax in voinə-r<sup>h</sup>,  
その 化け物・によって 彼らは 捕ま(りそうにな)っ・て
- 
- 49 ЯСҚ П'МУРҒ П'АЛҒАФТОҒ ПАЗД.  
j-asq p<sup>h</sup>-murr<sup>h</sup> p<sup>h</sup>-alɣaf toɣ paz-d.  
彼女の・妹が 自分の・帯を 自分の・後ろ に 投げ・た。
-

- 50 **ИН АЛҒАВУХ МЫТЬКЫЛК И ЖУКРЫМД.**  
 in alǵav ux mæskælk i huk-rəm-d.  
 彼女らの 後ろ に 小さな 川が 流れ・て・いた。
- 
- 51 **ЖУ МИЛК ИКА ЧАҒ ТАҒРА,**  
 hu milk ika tʃaχ ta-γ-ra,  
 その 化け物は すぐに 水 を飲ん・だ・のだ、
- 
- 52 **ЧАҒ ТАД ЧАҒ ТАД, ЖУРЬЮР, ЖУРЬЮР,**  
 cʰaχ ta-d cʰaχ ta-d, hur-ju-rʰ, hur-ju-rʰ,  
 水 を飲ん・だ、水 を飲ん・だ、ごくつとやっ・て、ごくつとやっ・て
- 
- 53 **ЖУ ЧАҒ ТАҒАРР, ИН АРИ ТЯИ КЛОИД КЛОИД.**  
 hu cʰaχ ta-γar-rʰ, in ari tʲai kloj-d kloj-d.  
 その 水 を飲み・終っ・て、彼は 後を また 走っ・た 走っ・た。
- 
- 54 **ЖУ ҖАҒҒУН, АРЫ П'ЕРМУД.**  
 hu ɾʰaγ-γun, arə pʰermu-d.  
 その 女性・たちは、もうほとんど 疲れて死ぬ(?)・のだ。
- 
- 55 **И АКДҒУН**  
 i ak-d-γun.  
 川 に着い・た・[複数]
- 
- 56 **И ТАҚРУХ АТКЫЧХ НЕНҢ ЖУПР ХУНВД.**  
 i taqr ux atkæcʰx nenŋ huɾ-rʰ hunv-d.  
 川 の対岸 に おじいさんが ひとり 座っ・て いた。
- 
- 57 **ИН ПОЛОҒДҒУН.**  
 in poloγ-d-γun.  
 彼女らは 叫ん・た・[複数]。
- 
- 58 **«АТКЫЧХА, НИН ОСҚУЯ, ЭҒОР, ЭҒОР.»**  
 "atkæcʰx-a, ɲin osqu-ja, eγo-rʰ eγo-rʰ."  
 「おじいさんよ、私たち を渡して・ね、急い・で 急い・で」
- 
- 59 **АТКЫЧХ ИТР,**  
 atkæcʰx it-rʰ,  
 おじいさんは 言っ・て、
- 
- 60 **«НИ П'ҖАТЬХ ЫАН.**  
 "ɲi pʰ-ɲasx ə an.  
 「私は 自分の・足が ああ 痛い。

- 61 **ЧИН АХ НИҢАТЬХ ТИТИВН, ЁСКАИВЕ.**  
 c<sup>h</sup>in ax ni-ŋasx titiv-n, josk-ai-ve.  
 あなたたちに 私の・足を 道にして(?) 渡ってください(?).
- 
- 62 **НИВИХТЫ ЗИТЬФ КАИВЕ.**  
 ni-vixtə zicf kai-ve.  
 私の・膝 を踏む ことのないように・してください。
- 
- 63 **ЧИН ПИХТЫ ЗИТЬВҒАИ,**  
 c<sup>h</sup>in pixtə zicv-kai,  
 あなたたちが 膝を 踏む・ならば、
- 
- 64 **АТКЫЧХ ЫАИН.»**  
 atkəc<sup>h</sup>x ə a-i-n, c<sup>h</sup>in i rox kut-i-d-yun da."  
 おじいさんは 痛くなり(?), あなたたちは 川 に 落ちる・[未来]・[終始]・[複数] よ
- 
- 65 **РҒҒУН ПИХТЫ АЛМТ, ТУКТОХ ПРҒДҒУН.**  
 r<sup>h</sup>ag-yun pixtə alm-t, tuk tox pr<sup>h</sup>ə-d-yun.  
 女性・たちは 膝を 避け(?)・て、こっち へ 来・た・[複数]。
- 
- 66 **ИН АТКЫЧХ КОМИ ФИҢЫ,**  
 in atkəc<sup>h</sup>x komi fi-ŋə,  
 彼女らは おじいさん のそばに いて
- 
- 67 **И ТАКРУХ ХУ МИЛК АХ ПОЛОҒРЫМД.**  
 i takr ux hu milk ax poloy-rəm-d.  
 川 の対岸 から あの 化け物 に 叫・ばせ・ていた。
- 
- 68 **«АТКЫЧХА, НЁСҚОЯ.»**  
 "atkəc<sup>h</sup>x-a, ŋ-osqo-ja".  
 「おじいさん・よ、私・を渡し・なさい」
- 
- 69 **АТКЫЧХ ИТҒ,**  
 atkəc<sup>h</sup>x it-r<sup>h</sup>,  
 おじいさんは 言っ・て、
- 
- 70 **«НЬҢАТЬХ УХ АМАМҒ ПРҒЯ.**  
 ŋ-ŋasx ux amam-r<sup>h</sup> pr<sup>h</sup>ə-ja.  
 私の・足 を 歩いて 来・なさい。
- 
- 71 **УРГУҒ НЬФИХТЫ ЗИТЬВ Я.»**  
 urgu-r<sup>h</sup> ŋ-fixtə zicv-ja."  
 よ・く 私の・膝を 踏み・なさい」
-

72 жу милк пихты зитъвңы, аткычх, ыаӑ,  
hu milk pixtə zicv-ŋə, atkəc<sup>h</sup>x ə a-r<sup>h</sup>,  
その化け物は膝を踏むと、おじいさんはああ痛くなって、

---

73 яңҗатъх туӑтуӑ жаңы,  
jaŋ ɲasx tur<sup>h</sup>tur<sup>h</sup> ha-ŋə,  
彼は足をグラグラ(?)させ、

---

74 жу милк и роҳ па кутъӑ,  
hu milk i rox pa kus-r<sup>h</sup>,  
この化け物は川にザブンと落ち、

---

75 и ух полоґӑ виӑ җакзлад.  
i ux poloʊ-r<sup>h</sup> ɲakzla-d.  
川で叫んで溺れた。

---

76 сик  
sik.  
終わり。

---

2003. 12. 16.

---

(たんぎく いつじ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究センター非常勤研究員)